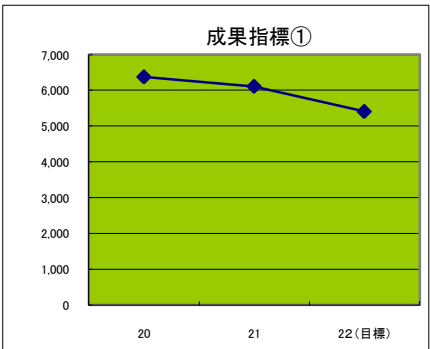
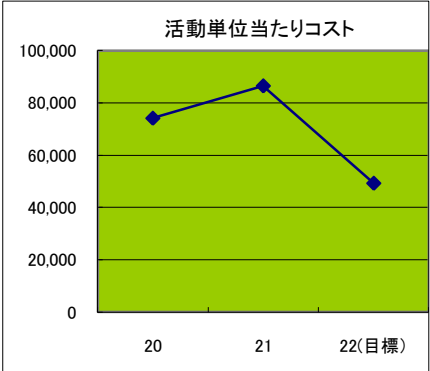


事務事業名			鉛管取替事業		会計	水道会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		予算科目	款	資本的支出
	施策(節)	11	上下水道		目	項	建設改良費
	施策の方向	(1)	良好で安全な水の供給		事業		工事請負費
	関連する計画等				作成部署	水道局工務課	
事業の目的	対象(誰を・何を) 給水区域内の鉛製給水管 意図(どういう状態にしたいのか) 上水道の安全性向上のため、鉛製給水管をポリエチレン2層管に取り替える。				連絡先	072 - 958 - 1111 内線 5043	
事業の内容	道路に埋設されている水道本管から、宅地内へ引き込まれている鉛製給水管を、ポリエチレン2層管に取り替える。						
根拠法令等	水道法						
事業開始時期	☐ 昭和 14 年開始 ☒ 平成		☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度	平成 年度	
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望	早期全廃に向け、計画的に実施するよう要望がある。						
実施手法	☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他				委託内容		

区 分		20年度	21年度	22年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		36,682	17,293	30,000	
人件費【2】 (千円)		5,793	4,668	4,518	
職員数	正規職員	0.75 人	0.60 人	0.58 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.07 人	0.07 人	0.07 人	
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		42,475	21,961	34,518	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	42,475	21,961	34,518	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	20年度	21年度	22年度(目標)
① 総工事件数		件	573	254	700
② 取替工事件数		件	254	96	200
③ その他工事件数		件	319	158	500
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)			74,127 円	86,461 円	49,311 円
市民1人当たりコスト(【A】／人口)			355 円	185 円	290 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名	単位	指標設定の考え方	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	①	件	鉛管取替事業開始初年度(平成14年度)からの給水区域内における残存件数の減少	目標 6,100	実績 5,676	達成率(%) 107.7%
	②	式		目標 6,376	実績 6,112	達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市民が安全・安心な水道水を使用していく上で、必要な事業である。
	○			○							

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市民に安全・安心できる水を供給する義務を果たすため、水質基準に適合しなくなる恐れのある鉛製給水管は、取り替えるべきである。 本来給水管は、個人の財産であるが、過去の一定期間に当時の厚生省の指導に基づき鉛製給水管の使用を積極的に推進した水道局の道義的責任において、取替を行う。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☒	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	効率的な事業を目指し、管工事業者との単価契約を締結し、迅速な事業遂行体制を整えている。 また、下水道工事に伴う移設工事・水道局が行う整備事業・改良及び修繕工事や、道路課が行う舗装工事に便乗し、鉛製給水管の取替に努めている。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	計画的に事業を実施し、市民に安全・安心できる水を供給する。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	ホームページで鉛製給水管取替事業実施をPRするとともに、取替工事予定家屋に工事に先立ち、各戸ビラの配布を行い市民の協力をお願いしている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	取替工事の実施により、鉛製給水管の残存件数は徐々に減少している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	平成14年から順次取替工事を実施しており、着実に残存件数が減少している。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行単本部評価	計画どおり取替工事を行い、早期全廃を目指す。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	